

令和 2 年度事業報告書

I 会 議

1 総 会

(1) 第 65 回通常総会 令和 2 年 6 月 22 日 宮城県畜産協会 会議室

会 員 総 数 62 会 員

出席会員数 59 会員 (本人出席 5 会員、委任状 54 会員)

議 案

第 1 号議案 令和元年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告
について

第 2 号議案 令和 2 年度事業計画並びに収支予算の報告について

第 3 号議案 令和 2 年度会費について

第 4 号議案 令和 2 年度役員報酬について

第 5 号議案 役員の改選について

(2) 第 1 回臨時総会 令和 2 年 9 月 29 日 書面決議

議 案

第 1 号議案 理事 1 名、監事 1 名の選任について

2 理 事 会

(1) 第 1 回理事会 令和 2 年 6 月 5 日 仙台市・JA ビル宮城 11 階第 1 会議室

議 案

第 1 号議案 令和元年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告
について

第 2 号議案 令和 2 年度事業計画並びに収支予算の変更について

第 3 号議案 令和 2 年度会費について

第 4 号議案 令和 2 年度役員報酬について

第 5 号議案 畜産物衛生環境整備円滑化事業に係る冷凍運搬車更新について

第 6 号議案 肉用子牛価格安定基金業務に係る生産者積立準備金 (第 4 業務
対象年間)の所在不明者等の一般正味財産繰入れについて

第 7 号議案 肉用子牛生産者補給金制度に係る第 6 業務対象年間終了に伴う
生産者積立準備金残額の返還について

第 8 号議案 役員改選について

第 9 号議案 令和 2 年度通常総会の開催期日並びに提出議案について

報 告 事 項 1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度について

2) 令和 2 年度 ALIC 新事業について

- (2) 第2回理事会 令和2年7月22日 書面決議
議 案
第1号議案 会長、副会長及び常務理事の選定について
- (3) 第3回理事会 令和2年8月31日 書面決議
議 案
第1号議案 令和2年度第1回臨時総会の招集について
- (4) 第4回理事会 令和3年3月19日 仙台市・JAビル宮城 10階第1会議室
議 案
第1号議案 令和2年度事業計画並びに収支予算の変更について
第2号議案 令和3年度事業計画並びに収支予算(案)について
第3号議案 令和3年度一時借入金最高限度額について
第4号議案 肉用子牛価格安定基金業務の特別の積立金の一般正味財産繰入れ
について
第5号議案 一般社団法人宮城県畜産協会 諸規程の一部改正について
報告事項 1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度について
2) 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業(肥育生産支援事業)に
ついて

3 監事会

- (1) 監事会 令和2年6月2日 宮城県畜産協会 会議室
監査事項 令和元年度事業報告、決算報告並びに公益目的支出計画実施報告
に関する監査

II 畜産経営支援対策事業

1 畜産経営技術高度化促進事業（宮城県：実績額 4,357,750 円）

畜産をめぐる情勢の変化に対応し、経営感覚に優れ生産性の高い畜産経営体の育成と指導者の養成を図り、経営体のレベルの向上と実態に応じた診断指導、調査等総合的な支援指導を実施し、畜産経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 畜産経営支援指導研究会の開催

畜産経営技術指導を効果的かつ効率的に実施するため、畜産の実情に対応した将来の畜産経営指導の展開方向、具体的な指導内容・方法及び関係機関の機能分担等について検討協議するため、県及び関係団体をもって構成する総合委員会を書面開催した。

区 分	開 催 年 月 日	開催方法	委員数	内 容
総合委員会	令和3年3月25日	書面開催	12名	①令和2年度実績について ②令和2年度畜種別指導方針について ③宮城県家畜改良増殖計画について

(2) 畜産コンサルタント団の設置

県及び畜産関係団体、学識経験者等幅広い分野の専門家をもって構成する畜産コンサルタント団を設置し、畜産経営体からの診断及び巡回指導要請に対応した指導を実施した。

畜産コンサルタント団設置の状況

総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント
2名	10名	24名

(3) 地域畜産経営体相談窓口指導

畜産経営体の支援指導を円滑に推進するため、日常的な経営体の状況把握・指導、地域における指導の連絡調整等指導相談の窓口を設置し、畜産経営体等からの延89件の相談・要請に対応した支援指導を実施した。

区 分	設置場所	担当地域
常 設	宮城県畜産協会 本 所	県一円
	宮城県畜産協会 仙南事業所	仙台、大河原管内
	宮城県畜産協会 中央事業所	大崎、石巻、登米、栗原管内
臨 時	みやぎ総合家畜市場（市場開設時）	県一円

(4) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に実施するため、コンピューター等関連機器を整備した。

(5) 畜産経営技術支援指導

畜産経営体の要請に基づき、その経営水準、実態等に対応した診断指導を実施し、経営改善のための効果的な支援指導を実施した。

畜産経営技術の支援指導実施状況（個別指導）

経営区分	改善指導	経営管理 技術指導	フォローアップ 指 導	計	備 考
酪 農	1 件	9 件	1 件	11 件	
肉用牛	2 件	25 件	6 件	33 件	
養 豚	0 件	2 件	0 件	2 件	
養 鶏	0 件	0 件	0 件	0 件	
計	3 件	36 件	7 件	46 件	

(6) 情報提供体制事業

パソコン通信網を活用した総合的な畜産関係情報の提供を図るため、ネットワークの開設と各種情報のデータベースを構築し、畜産経営技術の高度化に対応した効率的な支援指導を実施した。

(7) 畜産経営セミナーの開催

養豚経営における生産基盤の強化等を図るため、衛生飼養管理及び豚熱をテーマにセミナーを開催した。

開催年月日	開催場所	参加人数	セミナーの具体的内容
令和3年3月5日	リモート会場 (仙台市青葉区) 一般会場 (大崎市古川)	55名 (内リモート参加者51名)	「イノシシから農場を守る」 麻布大学獣医学部 客員教授 山口 祐輔 氏 「豚熱ワクチンについて」 宮城県農政畜産課 技術補佐 山田 治 氏

(8) 研修事業への参加

畜産経営指導事業並びに組織運営に必要な専門的知識及び技術の習得を図るため、中央畜産会等が主催する研修等に職員を派遣し、事業の円滑な推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人員	研修内容
令和2年10月5日～7日	栃木県 那須塩原市	1名	令和2年度経営指導技術向上事業に係る新任基礎研修(実践編)
令和2年10月6日～9日	福島県 西郷村	1名	令和2年度中央畜産技術研修会 (畜産新技術A・B)
令和2年10月6日	富谷市	1名	令和2年度宮城県新任職員研修会 畜産経営コンサルタントの概要・実務について
令和2年11月20日	仙台市 宮城野区	1名	令和2年度経営指導技術向上事業に係る海外畜産事情研修事前説明会(リモート開催)
令和2年12月3日	仙台市 宮城野区	5名	令和2年度北海道・東北ブロック役職員研修会(リモート開催)
令和3年1月21日	仙台市 宮城野区	1名	令和2年度経営指導技術向上事業に係る新任基礎研修(基礎)(リモート開催)
令和3年1月28日	仙台市 宮城野区	1名	令和2年度経営指導技術向上事業に係る経営指導従事者研修(リモート開催)
令和3年2月15日	仙台市 宮城野区	2名	令和2年度経営技術指導事業に係る女子職員向け研修(リモート開催)
令和3年2月22日	仙台市 宮城野区	1名	令和2年度肉用牛繁殖技術シンポジウム (リモート開催)

- 2 畜産経営技術指導事業（地方競馬全国協会：実績額 11,534,000 円）
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、研修会等の開催の制限はあったが、WEB 利用等により可能な限り畜産農家の育成と経営の安定的発展を図るため、県並びに関係団体と連携の下に基幹職員を配置し、畜産経営指導並びに家畜改良指導及び畜産物消費拡大、馬事振興等の多岐に亘る業務を実施した。
 (1) 畜産の担い手育成・確保・増強に向けた体制強化を図った。
 (2) 地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図った。
 (3) 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図った。
- 3 畜産特別資金等推進指導事業（中央畜産会：実績額 3,710,476 円）
 畜産特別資金利子補給事業の円滑な実施を図るため、宮城県大家畜・養豚経営改善推進協議会を中心として、畜産特別資金借受者 7 戸（酪農 3 戸、肉用牛 3 戸、養豚 1 戸）の農家に対し巡回指導を実施した。
- 4 畜産機械施設貸付調査指導事業（畜産近代化リース協会：実績額 283,021 円）
 貸付事業の利用拡大を図るため、畜産経営者等に対し説明会を開催するとともに、機器の適正な管理状況を把握するため現地調査（1 戸 4 機）を実施した。
- 5 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会：実績額 1,344,404 円）
 (1) 生産者組織整備
 酪農生産者ネットワークの構築を進め、会員増加を図るべく、6 名の生産者に対し研修会と情報提供意見交換会を開催した。
 (2) 畜産経営相談窓口整備
 生産者及び関係機関からの各種相談に応じるため依頼先等へ出向き、畜産の振興を図った。
- 6 公庫資金活用推進事業（農業経営サポート調査）（中央畜産会：実績額 44,000 円）
 日本政策金融公庫資金の借入者 2 戸（肉用牛肥育）に対して、経営課題抽出及び借入後の計画作成支援等を実施し、借入金の円滑な償還と経営の安定化を支援した。
- 7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）
 （農畜産業振興機構：実績 39,867,265 円）
 肉用牛生産基盤の強化を図り、肉用牛の生産振興、生産性の向上を図る事業を支援するため、肉用牛生産集団等が行う事業に対し補助した。

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
1 中核的担い手育成増頭推進	中核的担い手生産者が、増頭した繁殖雌牛への奨励金交付 (26 戸、102 頭)	みやぎ仙南、加美よつば、新みやぎ、みやぎ登米、いしのまき、宮城県配合飼料価格安定基金協会 (計 6 集団)
2 遺伝的多性に配慮した改良基盤確保	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付 (24 戸、30 頭)	みやぎ仙南、古川、新みやぎ、みやぎ登米、みやぎ農業振興公社 (計 5 集団)
3 優良繁殖雌牛導入支援	地域の和牛改良に必要な優良繁殖雌牛の導入に対して奨励金交付 (30 戸、52 頭)	みやぎ仙南、古川、新みやぎ、みやぎ登米、みやぎ農業振興公社 (計 5 集団)

区 分	事 業 内 容	農協・集団名
4 繁殖雌牛の増頭に資する簡易牛舎等の整備	増頭を要件とする簡易牛舎及び器具機材の整備 (パイプハウス牛舎等 5 棟)	全国農業協同組合連合会宮城県本部 (1 集団)
5 肉用牛ヘルパー推進	肉用牛ヘルパー活動の推進 (傷害保険料、ヘルパー利用料金)	みどりの和牛繁殖部会 JA 新みやぎ栗っこ肉用牛ヘルパー部会 みやぎ登米肉用牛ヘルパー部会 (計 3 集団)

- 8 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）（全国肉用牛振興基金協会：実績額 3,137,422 円）
牛肉の国内需要の増加と輸出拡大に対応するため、畜産クラスター計画に基づき、優良な繁殖雌牛を増頭した生産者に対して補助金を交付するため、農協等を対象に事業参加要望書や繁殖雌牛台帳の取りまとめ等を実施し、肉用牛の生産振興に資した。

農協・取組主体名	実績		
	戸数	頭数	金額
みやぎ仙南、仙台、古川、加美よつば、新みやぎ、みやぎ登米、いしのまき、宮城県配合飼料価格安定基金協会、宮城県域全肉協畜産クラスター協議会 (計 9 集団)	168 戸	757 頭	166,413,000 円

- 9 みやぎの子牛生産基盤復興支援事業（肉用牛生産拡大推進事業）
(宮城県：実績額 1,001,359 円)
東日本大震災及び放射能汚染事故、更には飼養者の高齢化等により減少した肉用牛の増頭を推進するため、相談窓口の設置及び講演会等を開催し、肉用牛経営の安定と生産基盤の育成強化に努めた。

(1) 肉用牛生産拡大相談窓口の開設

肉用牛生産拡大に向けた相談窓口を開設し、畜産経営体等から延 34 件の相談に応じた。

(2) 啓発資材の作成

繁殖雌牛の増頭を推進するため、啓発資材として種雄牛情報を掲載した下敷き(4,000 部)を作成し、生産者及び関係者に配布した。

- 10 畜産クラスター全国推進事業に係る全国実態調査（中央畜産会：実績額 240,000 円）
畜産クラスターにおける中心的経営体の指標作成に資するため、優良畜産経営体 3 戸（酪農 1 戸、肉用牛繁殖 1 戸、肉用牛肥育 1 戸）の経営実態調査を実施した。

- 11 畜産女性経営者育成強化事業（畜産女性経営者の地域育成支援事業）
(中央畜産会：実績額 465,189 円)

将来の畜産女性経営者の育成を図るため、畜産に携わる女性を対象に県内及び全国研修会等へ参加し、畜産現場での女性の活躍推進に努めた。

開催年月日	開催場所	参加人数	内 容
令和 2 年 10 月 22 日	大崎市	12 名	令和 2 年度畜産女性経営者の地域育成事業に係る研修会及び畜産女性サポート力強化全国研修会（全国研修会はリモート開催）
令和 2 年 11 月 17 日	仙台市 宮城野区	9 名	令和 2 年度畜産女性経営者育成強化事業に係る全国シンポジウム（リモート開催）

12 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(機械導入事業)に係る事業推進業務

(中央畜産会：実績額 4,464,307 円)

畜産クラスター事業の機械導入事業の円滑な推進を図るため、畜産クラスター協議会等を対象に事業説明会及び事業参加要望書等の取りまとめを行った。

宮城県内における事業参加要望書等の取りまとめ状況(未完了要望回次分)

(令和3年3月末現在)

要望調査回次	協議会数	項目	要望件数	申請書提出件数	実績報告書提出件数
平成30年第1回目	9 協議会	人数	170 人	153 人	140 人
		機械数	282 機	247 機	227 機
		補助金	449,978 千円	344,959 千円	305,312 千円
令和元年第1回目	10 協議会	人数	125 人	110 人	45 人
		機械数	282 機	256 機	64 機
		補助金	308,157 千円	247,136 千円	85,036 千円
令和2年第1回目	9 協議会	人数	86 人	66 人	0 人
		機械数	140 機	105 機	0 機
		補助金	215,540 千円	149,133 千円	0 千円
計	実12 協議会	人数	延381 人	329 人	185 人
		機械数	704 機	608 機	291 機
		補助金	973,675 千円	741,228 千円	390,348 千円

13 畜産・酪農生産力強化対策事業(家畜生産性向上対策事業)

(中央畜産会：実績額 705,383 円)

肉用牛繁殖経営8戸(新規就農者6戸・後継者2戸)に対し、家畜の生産性向上に係るデータ等の収集、分析及び技術指導を実施し、生産性の向上を図った。

14 畜産経営体生産性向上対策事業(ICT化等機械装置等導入事業)に係る事業推進業務

(中央畜産会：実績額 987,007 円)

畜産経営体生産性向上対策事業(通称：ICT事業)の機械導入の円滑な推進を図るため、畜産ICT応援会議を対象に事業説明会、事業参加要望書取りまとめ及び現地確認等を実施した。

機械導入状況(令和2年度)

ICT 応援会議	経営体数	導入機械	機械価格 (税抜)	補助金額	
みやぎの酪農協 畜産クラスター 協議会	7 戸	搾乳ユニット搬送レール自動	1 機	49,576 千円	24,788 千円
		搾乳ユニット搬送レール手動	3 機		
		ミルクカー自動離脱装置	3 機		
		自動給餌機	2 機		
		自走式配餌車	1 機		
		餌寄せロボット	1 機		
		分娩監視装置	1 機		
		バーンスクレッパ	1 機		
	(計 13 機)				

15 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業に係る事業推進業務

(中央畜産会：実績額 470,554 円)

酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（通称：楽酪 G0 事業）の円滑な推進を図るため、楽酪応援会議を対象に事業説明、事業参加要望書取りまとめ等を実施した。

要望書取りまとめ内容（令和 2 年度）

楽酪応援会議	経営体数	要望内容	機械価格 (税抜)	補助金額
みやぎの酪農協 畜産クラスター 協議会	7 戸	搾乳ユニット搬送レール自動 1 機 搾乳ユニット搬送レール手動 3 機 ミルカー自動離脱装置 3 機 自動給餌機 2 機 自走式配餌車 2 機 バーンスクレッパー 1 機 (計 12 機)	47,696 千円	23,848 千円

備考：全額 ICT 化等機械装置等導入事業で予算配分された為、導入実績は無い。

16 肉用牛経営災害緊急支援対策事業（農畜産業振興機構：実績額 3,723,702 円）

令和元年台風第 19 号及び令和 2 年 12 月から令和 3 年 3 月までの大雪による災害により被害を受けた肉用牛経営に対して、繁殖雌牛の導入及び牛舎等の補改修の費用の一部を補助し、経営継続を支援した。

生産者集団	戸数	員数	事業内容	補助金額(円)
新みやぎ農協(あさひな地区)	1 戸	10 頭	繁殖雌牛の導入	2,701,000
新みやぎ農協(栗っこ地区)	3 戸	5 棟	牛舎等の補改修	679,359

17 粗飼料確保緊急対策事業（農畜産業振興機構：実績額 503,061 円）

令和元年台風第 19 号の災害により、稲わら等の自給飼料が不足する肉用牛経営 8 戸に対して生産者集団等をとおして、不足する代替粗飼料購入経費の一部を補助し、経営継続を支援した。

生産者集団	戸数	補助対象代替 飼料購入量(kg)	補助金額 (円)
みやぎ仙南農協	1	23,630	118,150
新みやぎ農協(みどりの地区)	5	6,679	33,395
新みやぎ農協(栗っこ地区)	1	1,920	9,600
宮城県配飼協粗飼料確保対策緊急連絡会議	1	26,910	134,550
計	8	59,139	295,695

18 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業（肥育生産支援事業）

(中央畜産会：実績額 5,850,475 円)

新型コロナウイルス感染症の影響により、牛肉価格が下落し、肉用牛肥育経営体の経営悪化が危惧されるため、経営体質強化を図る取組を実施した経営体に対して奨励金を交付することにより経営継続を支援した。

事業参加者	頭数	奨励金単価	交付金額
662 戸	15,003 頭	20,000 円	300,060,000 円

Ⅲ 家畜衛生対策事業

1 特定疾病自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 120,478,570円）

家畜伝染病の発生予防及びまん延防止のため、地域ぐるみで予防接種を推進し、伝染病発生による損耗防止に努めた。

予防接種の種類	地域別接種頭数（頭）						合計
	仙南	中央	大崎	栗原	登米	石巻	
(1) 豚丹毒ワクチン（生）	1,155	0	0	4,900	12,936	0	18,991
(2) 豚丹毒ワクチン（不）	30,207	0	1,100	0	0	0	31,307
(3) 豚日本脳炎ワクチン（不）	0	0	0	0	0	0	0
(4) 豚三種混合ワクチン（生）	131	15	145	11	121	50	473
(5) 豚伝染性胃腸炎・流行性下痢混合ワクチン（生）	0	0	0	0	74	0	74
(6) アカバネ病ワクチン（生）	2,588	1,635	8,119	3,270	5,358	1,199	22,169
(7) 牛五種混合ワクチン（生）	1,237	977	5,287	3,131	4,867	992	16,491
(8) 牛ヘモフィルスワクチン（不）	1,205	904	4,930	2,987	4,735	939	15,700

2 自衛防疫推進事業（協会独自事業：実績額 2,880,845円）

自衛防疫事業を円滑に推進するため、自衛防疫推進会議等を開催し、家畜衛生に関する知識の普及や情報の収集・伝達に努めた。

(1) 家畜自衛防疫推進会議等の開催状況

名称	場所	開催回数	出席人数	備考
① 家畜自衛防疫推進会議	仙台市内	3回	65人	県、家畜保健衛生所職員等
② 家畜衛生専門委員会	〃	1回	18人	県、家畜保健衛生所長等

(2) 指定獣医師定例会の開催状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により開催を中止した。

(3) 家畜自衛防疫事業推進事務交付金交付実績

交付先	交付金額	備考
市町村（28）	468,600円	アカバネ病等：注射負担金額×1%以内
農業協同組合（9）	572,100円	牛五種混合等：注射負担金額×1%以内
計	1,040,700円	

(4) 予防接種事故見舞金交付件数

予防接種の種類	畜種	交付件数
アカバネ病（生）	肉用牛	2件
牛ヘモフィルス（不）	肉用牛	3件
合計		5件

3 家畜生産農場衛生対策事業（農林水産省：実績額 11,153,659 円）

生産農場における疾病の清浄化及び組織的な取組による疾病流行防止のため、牛伝染性リンパ腫（牛白血病）の清浄化等に向けた取組を支援した。

(1) 疾病清浄化支援対策

牛伝染性リンパ腫（牛白血病）の検査に対する支援を行い、早期清浄化及び清浄化維持の促進に努めた。

区 分	戸数	頭数
① 対策実施農場における対策	2 戸	48 頭
② 共同放牧場等における対策	134 戸	766 頭

(2) 農場飼養衛生管理強化対策

家畜伝染病予防法の一部改正により、生産者の遵守すべき飼養衛生管理基準が大幅に見直され、生産者に対し同基準を早期に周知するため、獣医師等による衛生指導の強化を図り、これら費用の一部を支援した。

地 域	農家戸数	指導回数	備 考
中 央	29 戸	29 戸×1 回	酪農(19)、肉用牛(10)
登 米	40 戸	40 戸×1 回	肉用牛(31)、養豚(9)
計	69 戸	69 回	

4 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農林水産省：実績額 13,942,244 円）

我が国の牛海綿状脳症（BSE）対策の有効性を監視し、生産者や消費者の安心と信頼を確保維持するため、牛海綿状脳症対策特別措置法に基づく、96 カ月齢以上の死亡牛等の全頭検査を実施した所有者等に対し、管理・輸送・処理に係る経費を補助し、BSE 検査の円滑な推進に努めた。

また、県畜産課、家畜保健衛生所、県域団体、死亡牛収集運搬業者等で構成する宮城県死亡牛緊急処理円滑化施設整備事業推進協議会を開催し、死亡牛の円滑な収集運搬及び処理のための取組と良好な家畜衛生並びに環境の維持を図り、畜産の健全な発展に努めた。

(1) 死亡牛検査処理安定対策

区 分	補助対象頭数 及び 単価			金 額
	県北地域	県南地域	計	
① 輸送促進費	399 頭	129 頭	528 頭	県北地域：1,795,500 円 県南地域：516,000 円
② 適正処理費	399 頭	0 頭	399 頭	県北地域：2,992,500 円
合 計				5,304,000 円

*補助対象外頭数：4 頭（県北：4 頭、県南 0 頭）

(2) 死亡牛検査支援対策

区 分	補助対象頭数			単 価	金 額
	県北地域	県南地域	計		
BSE 検査費補助	399 頭	129 頭	528 頭	7,400 円	3,907,200 円

*補助対象外頭数：4 頭（県北：4 頭、県南：0 頭）

5 畜産物衛生環境整備円滑化事業（協会事業、宮城県：実績額 19,616,211 円）

県内で発生する死亡家畜の処理を円滑かつ効率的に推進するため、一時保管する家畜死体冷却保管施設及び家畜死体冷凍運搬車の利用について、死亡牛輸送業者 3 社及び関係者と協議し、家畜疾病のまん延防止を図り、家畜飼養衛生環境の保全に努めるとともに、家畜死体冷凍運搬車の更新及び老朽化に伴う施設の修繕・改修等の工事を行った。

また、96 カ月齢以上の死亡牛等の BSE 全頭検査の採材場所として「宮城県死亡獣畜取扱施設」を利用し、県が実施する検査の円滑な推進を支援した。

(1) 家畜死体冷却保管施設利用頭数

区分	牛	豚	馬	綿羊・山羊等	計
頭数 (頭)	4,661	5,058	8	30	9,757
重量 (t)	1,398.30	455.22	3.20	2.55	1,859.27

(2) 死亡獣畜取扱施設の利用状況

畜種	取扱頭数	取扱対象牛	BSE 検査結果	備考
牛	403 頭 (399 頭)	96 カ月齢以上の死亡牛等	全頭陰性	() 内は補助対象頭数

(3) 家畜死体冷凍運搬車利用頭数

畜種	利用頭数	利用対象牛	BSE 検査結果	備考
牛	129 頭	96 カ月齢以上の死亡牛等	全頭陰性	全頭補助対象

(4) 施設の修繕・改修等

区分	月	修繕・改修工事等
家畜死体冷却保管施設	8 月	敷地内電灯設備設置
	11 月	シャッター安全装置修繕
家畜死体冷凍運搬車	4 月	天井スライド板補強・レール修繕
	5 月	コンプレッサー・電源ケーブル修繕
	8 月	車両コンプレッサー修繕
	3 月	家畜死体冷凍運搬車更新

6 家畜防疫・衛生指導対策事業（中央畜産会：実績額 5,776,187 円）

(1) 地域自衛防疫推進事業

地域での伝染病発生時の対応等を支援するため、伝染性疾病の発生に備えた防疫演習や飼養衛生管理基準に基づく防疫対策への取り組みの啓発等の検討を行うとともに、生産者段階での防疫演習等の実施、生産現場における家畜防疫体制の強化を図ることにより、伝染性疾病の発生予防等防疫措置の徹底に努めた。

区分	開催月日	開催場所	人数	備考
防疫演習 (計 6 回)	令和 2 年 7 月 14 日	仙台市宮城野区	76 名	生産者、市町村、農協・畜産団体、建設業協会、警察、 県職員（畜産課、家保、農業関係、土木、一般職員等） (延べ 536 名)
	令和 2 年 8 月 5 日	登米市迫町	48 名	
	令和 2 年 9 月 9 日	仙台市青葉区	78 名	
	令和 2 年 10 月 29 日	松島町	95 名	
	令和 2 年 11 月 11 日	登米市東和町	139 名	
	令和 2 年 11 月 18 日	大河原町	100 名	

(2) 地域農場HACCP認証支援事業

県内における農場HACCP認証に取り組む農場及び認証取得農場が継続的改善を図ることに対し、専門家による構築指導等を行い、地域に農場HACCP取組の中核となる農家を育成し、普及推進を図った。

区 分	実 績	備 考
構築指導意見交換	2 戸	肉用牛：1 農場、養豚：1 農場
構築指導	3 戸	乳用牛：1 農場、養豚：1 農場、 養鶏：1 農場

7 育成馬等予防接種推進事業（中央畜産会：実績額 137,511 円）

馬飼養形態の集団化、大規模化及び頻繁な移動等の実態を踏まえ、生産地の繁殖牝馬について予防接種（馬インフルエンザ）の徹底を図った。

ワクチンの種類	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン（1歳補強）	2 戸	3 頭（延べ6頭）
馬インフルエンザワクチン（繁殖牝馬）	3 戸	5 頭

8 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会：実績額 777,912 円）

馬生産地における伝染性疾病の防疫強化を図るため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会を開催し、乗用馬を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬等の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種を推進した。

(1) 馬防疫強化地域推進対策事業

区 分	開催期日	開催場所	出席人数
地域推進対策会議	令和3年1月27日	仙台市	17名

(2) 馬のワクチン接種推進事業

ワクチンの種類	対象馬	接種戸数	接種頭数
馬インフルエンザワクチン	競走馬以外の乗用馬	5 戸	78 頭

9 家畜防疫互助基金支援事業（農畜産業振興機構：実績額 3,228,117 円）

口蹄疫や豚熱等の越境性動物疾病が発生した場合、生産者による自主的な互助制度により生産者が飼養する牛及び豚の淘汰に伴う畜産経営への影響を緩和するため、各関係者と連携を図り、本制度の普及啓蒙を図った。

特に、最近、中国や台湾において口蹄疫等が継続的に発生しており、国内への病原体の侵入が懸念されるので、事務委託先等を通じて未加入者の加入を推進した。

(1) 事業実施期間：平成30年度～令和2年度（3年間）

(2) 事務委託先：農協及び酪農団体等 18団体

(3) 契約状況

(令和3年3月31日現在)

畜種	契約戸数	契約頭数	積立金額
① 乳用牛	2,525 戸	18,479 頭	3,673,225 円
② 肉用牛		78,181 頭	11,302,410 円
小計(①+②)		96,660 頭	14,975,635 円
③ 豚	64 戸	174,033 頭	28,855,290 円
合計	2,589 戸	270,693 頭	43,830,925 円

10 獣医師養成確保修学資金貸与事業（農林水産省：実績額 5,284,603 円）

産業動物獣医師を志す者2名に対し、獣医師養成確保修学資金を給し、有能な産業動物獣医師の養成及び確保を図り、宮城県産業動物の診療体制の整備と畜産振興に寄与した。

貸与者	貸与額
酪農学園大学6年	180,000 円/月
酪農学園大学1年	180,000 円/月

11 ASF侵入防止緊急支援事業（農畜産業振興機構：実績額 90,487,253 円）

地域侵入防止計画に基づく野生動物の侵入に対する防護柵を整備する養豚経営体に対し、その負担の軽減を図るため、当該柵の施設整備に対する支援を行った。

名称	地域	養豚経営体	農場
宮城県アフリカ豚コレラ対策協議会	大河原	7	11
	北部	6	11
	栗原	4	6
	東部	9	11
	計	26	39

IV 家畜価格安定対策事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（農畜産業振興機構）

肉用子牛の価格が低落し、保証基準価格を下回った場合に生産者に対し生産者補給金を交付するため生産者積立金を造成し肉用子牛生産の安定を図った。

（令和3年3月31日現在の契約生産者は 2,407 戸）

（1）生産者積立金の造成（実績額 42,880,400 円）

生産者、宮城県、国の三者が 1：1：2 の割合で生産者補給金の交付に備え、生産者積立金を造成した。

令和2年度生産者積立金造成対象期間：令和2年1月1日～令和2年12月31日

品種区分		契約頭数 (頭)	積立金 単価 (円)	積立額 (円)	負担区分 (円)		
					生産者	宮城県	農畜産業振興機構
黒毛和種	1月1日～ 3月31日	4,546	1,200	21,248,400	5,312,100	5,312,100	10,624,200
	4月1日～ 12月31日	13,659	1,600	21,854,400	5,463,600	5,463,600	10,927,200
褐毛和種	1月1日～ 3月31日	14	4,600	64,400	16,100	16,100	32,200
	4月1日～ 12月31日	43	6,000	258,000	64,500	64,500	129,000
その他肉 専	1月1日～ 3月31日	0	12,400	0	0	0	0
	4月1日～ 12月31日	0	18,800	0	0	0	0
乳用種	1月1日～ 3月31日	134	6,400	857,600	214,400	214,400	428,800
	4月1日～ 12月31日	485	6,800	3,298,000	824,500	824,500	1,649,000
交雑種	1月1日～ 3月31日	950	2,400	2,280,000	570,000	570,000	1,140,000
	4月1日～ 12月31日	2,754	3,200	8,812,800	2,203,200	2,203,200	4,406,400
合計		22,585	—	42,880,400	10,720,100	10,720,100	21,440,200

(2) 肉用子牛生産者補給金の交付実績 (実績額 0円)

令和2年度は、黒毛和種、褐毛和種、乳用種、交雑種において、四半期毎平均売買価格が保証基準価格を下回らず発動はなかった。

なお、その他の肉専用種において、第4・四半期に発動があったが、契約生産者がいないため交付はなかった。

参考：保証基準価格・合理化目標価格・平均売買価格

(単位：円)

区 分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格		541,000	498,000	320,000	164,000	274,000
合理化目標価格		429,000	395,000	253,000	110,000	216,000
平均売買 価 格	第1・四半期	620,700	557,500	-	238,200	340,500
	第2・四半期	654,800	567,400	-	241,000	332,000
	第3・四半期	740,100	690,300	-	259,400	369,700
	第4・四半期	774,500	721,900	297,300	249,800	380,500

※ は発動あり。

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業 (農畜産業振興機構)

(1) 運営適正化事業 (実績額 21,922,665円)

補給金制度の適正かつ円滑な運営を図るため業務推進会議の開催、事務委託先及び契約生産者に対し調査・指導を実施し、本制度加入の促進及び個体登録業務等の正確かつ迅速化に努めた。また、全国の品種別平均売買価格の算定に資するため、みやぎ総合家畜市場の肉用子牛取引情報を収集し(独)農畜産業振興機構へ毎月報告した。

(2) 運営体制支援事業 (実績額 13,556,190円)

肉用子牛生産者補給金制度を適正かつ円滑に実施するため、指定協会の運営体制の強化を図った。

3 優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 (農畜産業振興機構：実績額 672,956円)

肉用子牛の飼養頭数を維持するため、畜舎の環境改善や疾病の防止等とおして経営改善に取り組む肉用子牛生産者に対し、全国平均売買価格が発動基準価格を下回った場合に、奨励金を交付することとしていたが、今年度の交付はなかった。

品 種 区 分	発動基準価格 A (奨励金単価 1万円/頭)	発動基準価格 B (奨励金単価 3万円/頭)
黒毛和種	60万円	57万円
褐毛和種	55万円	53万円
乳用種	18万円	17万円
交雑種	30万円	29万円
その他の肉専用種	35万円	34万円

4 肉用牛肥育経営安定交付金制度 (農畜産業振興機構)

肉用牛の枝肉価格が低落し、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に差額分の9割を交付するため、生産者積立金を造成し、肥育経営の安定を図った。

令和2年度における品種別交付頭数は、肉専用種 9,999 頭、交雑種 2,909 頭、乳用種 30 頭、合計 12,938 頭となり、366 戸に対して農畜産業振興機構交付金と肉用牛肥育安定基金取崩し額を合せて 1,856,806,727 円を交付した。

なお、新型コロナ対策として令和2年4月から生産者負担金は、納付猶予(実質免除)となり、交付金は国費分(3/4)のみとなった。本県は、肉専用種の基金が枯渇した事により、令和2年5月販売分から国費分のみの交付となった。

(1) 推進事務費 (実績額 16,025,000 円)

(2) 肉用牛肥育安定基金の造成 (実績額 203,000 円)

令和2年度造成対象期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

品 種 区 分	生産者積立金			備 考
	造成頭数(頭) ①	単価(円) ②	造成額 (円) ③=①×②	
肉専用種	14	6,000	84,000	
	(15,977)	0	0	
	15,991		84,000	
交 雑 種	7	17,000	119,000	
	(2,270)	0	0	
	2,277		119,000	
乳 用 種	0	19,000	0	
	(37)	0	0	
	37		0	
合 計	21		203,000	
	(18,284)		0	
	18,305		203,000	

注) () 内は、生産者負担金の納付猶予牛

(3) 令和2年度肥育牛交付金交付実績総括表

販売月	品種区分	交付対象				肥育牛交付金			
		人数 (人)	頭数(頭)			単価 (円) ④	金額(円)		
			内 訳		計 ③= ①+②		内 訳		計 ⑤+⑥
			通常 ①	猶予 ②			通常 ⑤= ①×④	猶予 ⑥=②× (④×3/4)	
令和2年 1月 (精算払)	肉専用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	1	2	0	2	4,000.0	8,000	0	8,000
	計	1	2	0	2		8,000	0	8,000
令和2年 2月	肉専用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	15	266	0	266	24,121.8	6,416,391	0	6,416,391
	乳用種	2	2	0	2	39,319.2	78,638	0	78,638
	計	17	268	0	268		6,495,029	0	6,495,029
令和2年 3月	肉専用種	257	1,110	0	1,110	157,370.4	174,681,016	0	174,681,016
	交雑種	16	345	0	345	116,715.6	40,266,875	0	40,266,875
	乳用種	0	0	0	0	54,562.5	0	0	0
	計	273	1,455	0	1,455		214,947,891	0	214,947,891
令和2年 4月	肉専用種	275	1,311	10	1,321	289,206.0	379,149,066	2,169,042	381,318,108
	交雑種	16	291	2	293	148,130.1	43,105,853	222,194	43,328,047
	乳用種	3	2	1	3	52,145.1	104,290	39,108	143,398
	計	294	1,604	13	1,617		422,359,209	2,430,344	424,789,553
令和2年 5月	肉専用種	261	0	1,100	1,100	296,920.8	0	215,259,462	215,259,462
	交雑種	15	240	4	244	146,220.3	35,092,867	438,660	35,531,527
	乳用種	1	1	1	2	46,925.1	46,925	35,193	82,118
	計	277	241	1,105	1,346		35,139,792	215,733,315	250,873,107
令和2年 6月	肉専用種	278	0	1,308	1,308	222,351.3	0	218,126,412	218,126,412
	交雑種	13	245	4	249	190,413.3	46,651,399	571,240	47,222,639
	乳用種	1	1	0	1	48,078.9	48,078	0	48,078
	計	292	246	1,312	1,558		46,699,477	218,697,652	265,397,129
令和2年 7月	肉専用種	293	0	1,462	1,462	161,751.6	0	177,360,421	177,360,421
	交雑種	17	270	21	291	180,387.9	48,704,728	2,841,103	51,545,831
	乳用種	2	3	2	5	39,031.2	117,093	58,546	175,639
	計	312	273	1,485	1,758		48,821,821	180,260,070	229,081,891
令和2年 8月	肉専用種	253	0	1,082	1,082	187,868.7	0	152,455,264	152,455,264
	交雑種	16	177	32	209	153,076.5	27,094,540	3,673,832	30,768,372
	乳用種	3	0	5	5	53,616.8	0	193,560	193,560
	計	272	177	1,119	1,296		27,094,540	156,322,656	183,417,196
令和2年 9月	肉専用種	264	0	1,285	1,285	155,269.8	0	149,641,031	149,641,031
	交雑種	16	83	63	146	163,894.5	13,603,244	7,744,007	21,347,251
	乳用種	2	2	0	2		78,412	0	78,412
	計	282	85	1,348	1,433		13,681,656	157,385,038	171,066,694
令和2年 10月	肉専用種	258	0	1,331	1,331	68,610.6	0	68,490,314	68,490,314
	交雑種	15	45	141	186	131,468.4	5,916,077	13,902,776	19,818,853
	乳用種	4	1	5	6	37,969.2	37,969	142,382	180,351
	計	277	46	1,477	1,523		5,954,046	82,535,472	88,489,518

販売月	品種区分	交付対象				肥育牛交付金			
		人数 (人)	頭数(頭)			単価 (円) ④	金額(円)		
			内 訳		計 ③= ①+②		内 訳		計 ⑤+⑥
			通常 ①	猶予 ②			通常 ⑤= ①×④	猶予 ⑥=②× (④×3/4)	
令和2年 11月	肉専用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	16	17	211	228	79,365.6	1,349,214	12,559,596	13,908,810
	乳用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	計	16	17	211	228		1,349,214	12,559,596	13,908,810
令和2年 12月	肉専用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	15	2	225	227	29,124.9	58,249	4,914,813	4,973,062
	乳用種	0	0	0	0	38,791.8	0	0	0
	計	15	2	225	227		58,249	4,914,813	4,973,062
令和3年 1月 (概算払)	肉専用種	0	0	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	12	5	220	225	19,405.4	97,027	3,201,883	3,298,910
	乳用種	1	0	2	2	39,958.7	0	59,937	59,937
	計	13	5	222	227		97,027	3,261,820	3,358,847
合計	肉専用種	2,139	2,421	7,578	9,999		553,830,082	983,501,946	1,537,332,028
	交雑種	182	1,986	923	2,909		268,356,464	50,070,104	318,426,568
	乳用種	20	14	16	30		519,405	528,726	1,048,131
	合計	2,341	4,421	8,517	12,938		822,705,951	1,034,100,77	1,856,806,727

(4) 緊急支援金等返還業務

緊急支援金等交付対象者のうち未返還者6戸に対し返還請求書を発行し、農畜産業振興機構への返還業務を実施した。

①緊急支援金等交付実績

資金名	対象者数(戸)	交付頭数(頭)	交付金額(円)
緊急支援金	501	37,026	1,851,300,000
出荷遅延支援金	315	7,958	5,758,440,000
価格低下支援金	61	510	79,630,000
計	実524(延べ877)	45,494	7,689,370,000

②返還額(生産者からの返還額)

(令和3年3月31日現在)

資金名	返還済額(円)			未返還額(円)
	平成23~令和元年度	令和2年度	計	
緊急支援金	1,851,300,000	0	1,851,300,000	0
出荷遅延支援金	5,733,540,000	5,810,000	5,739,350,000	19,090,000
価格低下支援金	79,630,000	0	79,630,000	0
預り金	3,638,712	▲1,439,595	2,199,117	▲2,199,117
計	7,668,108,712	4,370,405	7,672,479,117	16,890,883
未返還者からの 受取利息 (H27年10月から)	3,216,985	28,607	3,245,592	

- 5 肉豚経営安定交付金制度（農畜産業振興機構：実績額 793,247 円）
 肉豚経営安定交付金制度の円滑な推進を図るため、養豚事業者等を対象とした事業説明会を書面にて開催し、養豚関係者からの問い合わせに随時対応した。
- 6 肉豚経営安定交付金制度（生産者委託：実績額 644,715 円）
 肉豚経営安定交付金制度の円滑な推進を図るため、養豚生産者 15 戸との事務委託契約に基づき、書類申請及び関係書類保管等に関する助言指導等を実施し、養豚経営の安定に資した。
- 7 肉牛事故共助推進事業（全農宮城県本部：実績額 61,604,387 円）
 肉用牛生産者並びに出荷者団体からなる基金を造成し、全農宮城県本部が販売する肉牛に発生する事故に対しその損害を補償し、肉牛経営の安定を図った。
- (1) 肉牛事故共助推進事業費 1,057,851 円
 (2) 肉牛事故共助金 60,546,536 円

品種	頭数	金額
肉専用種	863	58,866,704
乳用種	28	634,840
交雑種	6	1,044,992
計	897	60,546,536

(3) 肉牛事故共助積立基金 (単位：円)

令和元年度繰越額 A	受取積立額 B	受取利息 C	交付額 D	令和2度基金残高 A+B+C-D
16,447,808	70,731,710	183	60,546,536	26,633,165

V 家畜改良対策事業

1 家畜人工授精用精液流通調整事業（協会独自事業：実績額 209,060,478 円）

本県の家畜改良を円滑に推進し、乳牛及び和牛の生産拡大を図るため、宮城県畜産試験場繋養の種雄牛を主体に、県内7ヶ所のサブセンターにおいて、家畜人工授精師等に対し凍結精液の供給と液体窒素の配送を行うとともに、計画的交配の指導を実施し、家畜の改良増殖の推進と畜産経営の安定と発展に資した。

凍結精液供給本数

和 牛			乳 牛	液体窒素	備 考
県有牛	事業団等	計	事業団等		
本 28,451	本 10,121	本 38,572	本 4,492	kg 41,587	

2 宮城県総合畜産共進会（協会独自事業：実績額 44,484 円）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により開催を中止した。

3 種豚登録関連事業（日本養豚協会：実績額 603,020 円）

近年の養豚生産構造の変化に対処するため、登録関連制度の普及啓蒙と質的向上を図るため登録対象豚の選抜並びに適正な登録事業を推進した。

また、交配品種の多様化に伴う素豚の品質低下を防止するため、一代雑種豚血統証明等を含めた種豚登録事業を推進した。

登記・登録実績 (件)

区 分	種豚 登録	一腹 記録	子豚 登記	一代雑種豚 血統証明	各 種 移動証明	系統種豚 証明
実 績	113	305	317	76	10	10

4 乳用牛群検定普及定着化事業（宮城県：実績額 490,600 円）

牛群検定加入者の推進を図るため、4名に検定推進員を依頼し、県内の非検定農家を対象に推進を行うとともに、併せて既検定農家へ巡回指導及び研修会を開催した。

（非検定農家推進戸数 2 戸、既検定農家巡回指導 1 戸）

5 乳用種雄牛後代検定事業（家畜改良事業団：実績額 117,040 円）

遺伝的に優れた能力を有することが証明された種雄牛（検定済種雄牛）を計画的に作出し、広域的な利用を行う精液の保管と配布を行った。（調整交配配布本数 560 本）

VI その他

1 専門委員会

家畜衛生事業、和牛改良事業の推進に係る懸案事項について検討するため、各専門委員会を設置し事業の円滑な推進を図った。

2 褒賞の授与

畜産に関する各種共進会、共励会において成績優秀な者に対し褒賞を授与した。

3 畜産普及広報活動

(1) 県内の畜産情報並びに技術の普及拡大を図るため、「畜産みやぎ」を年6回発行した。

(2) 月刊「畜産コンサルタント」誌並びに指導資料を配布し、畜産技術の普及啓蒙を図った。

令和2年度役職員の異動状況

(1) 役員 の 状況

区 分	令和2年度当初	辞任	退任	就任	令和3年度当初
理 事	13	1	1	3	14
監 事	3	1	0	1	3
計	16	2	1	4	17

辞任理事：榊原 勇

退任理事：中鉢 正信

就任理事：江畑 正徳、松本 憲、佐野 和夫

辞任監事：浅野 清

就任監事：舟山 健一

(2) 職員 の 状況

区 分	令和2年度当初	令和3年度当初	増 減
正 職 員	18	13	△5
再雇用者	3	7	4
嘱託職員	2	1	△1
臨時職員	10	10	0
計	33	31	△2